

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 86 号

令和5年9月発行
(2023年)

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	会員近況報告	P.4
2023年度三水会定期総会報告	P.2	武藤先生着任挨拶	P.5
〃	P.3	丸山事務局員挨拶	P.7
水産学部11期生同窓会報告	P.4	お知らせ	P.8



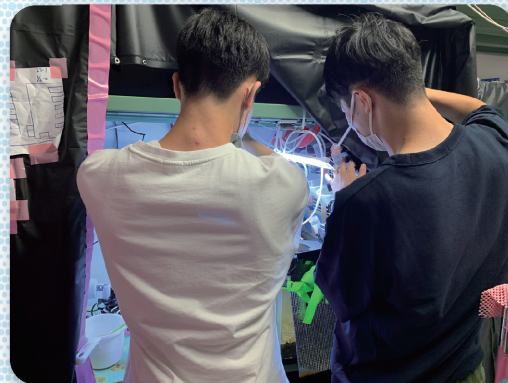
相模原キャンパスBBQ場



MB号館オープンキャンパス



三陸実習



研究室での日常

「2023年度 三水会定期総会報告」

4年ぶりに対面での開催となりました2023年度三水会定期総会が5月20日(土)午後3時より、北里大学白金キャンパスプラチナタワー12階3125会議室において開催されました。

この3年間はCOVID-19により三水会活動も制限され、大変な時期を過ごしました。しかし今年に入り少しずつ日常にも活気が戻って、対面で開催することができました。

総会は代議員総数49名に対し、出席48名(本人出席33名、委任状提出15名)欠席1名となりました。冒頭、議長団の選出では議長に水産食品学科11期の徳江喜一氏、続いて議事録署名人には水産増殖学科3期の水鳥純雄氏、水産増殖学科4期の石井美華氏が選出されました。

その後議事に入り執行部より2022年度事業報告及び収支決算報告が行われ、続いて監査報告が行われました。そして原案通り承認されました。

引き続き2023年度事業計画案及び予算案の説明があり、原案通り承認されました。

総会終了後、同会議室で菅野学

部長より海洋生命科学部の近況等の説明がありました。つづいて第33回北里大学同窓会研究奨励賞受賞の田口瑞姫氏(2014年3月卒)より、研究課題「マナマコ大腔細胞の凝集促進因子の同定」の講演会が開催されました。

その後、薬学部2号館1階学生食堂にて懇親会を開催し、久々に互いの交友を深めました。

『2022年度事業報告』

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状及び各種情報を含む会報を、2022年9月と2023年3月の2回発行した。

2. 三水会ホームページの運営管理

会員に対し本会の各種情報を提供した。

3. 会員の現状の把握

全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努めた。

4. 親睦会の開催

- ・2022年度「水産学部卒業30年の集い」を、2022年11月5日(土)水産学部7期・8期・9期・10期・11期の各卒業生を対象に、相模原キャンパスで開催した。
- ・九州沖縄地区会員を主な対象とした親睦会を、2022年11月12日(土)那覇市にて開

財 産 目 録

2023年3月31日現在

*一般会計 (円)

預金等			
みずほ銀行	三ツ境支店	普 1159267	415,415
山梨中央銀行	小沼支店	普 214393	5,855,604
みずほインバスターズ証券	新宿支店	MMF	606,918
現 金			84,273
合 計			6,962,210

*特別会計 (円)

(1) 事業積立金

みずほインバスターズ証券	新宿支店	MMF	1,000,000
--------------	------	-----	-----------

(2) 大学助成金

ゆうちょ銀行	〇八八 088	普 15963761	151,241
--------	---------	------------	---------

※一般会計「準会員活動助成」の対象とならない北里大学や準会員以外の団体等に対する助成を目的とする積立金

監 査 報 告 書

三水会規約第18条に基づき、2022年度(自・2022年4月1日至・2023年3月31日)提出された収支決算書の各事項について監査を行った結果、その内容は適当なものと認めます。

2023年4月4日
監事 西尾 徹

2023年4月9日
監事 材津 裕

2022年度収支決算書

2023年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	5,050,000	4,143,547	1. 部会助成金	4,456,000	4,456,000
(1) 会報の発行費	2,600,000	2,521,950	2. 会報郵送料補助	837,000	837,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	140,768	3. 前年度繰越金	7,304,955	7,304,955
(3) 会員現況把握費	150,000	50,000	4. 預金利息	45	76
(4) 親睦会の開催費	1,000,000	939,504	5. 雑収入	300,000	150,000
(5) 同期会等助成費	200,000	0			
(6) 懇談会費	100,000	0			
(7) 準会員活動助成金	200,000	0			
(8) 就職ガイダンスの開催費	250,000	148,900			
(9) 漁船海難遭見育英会寄付	50,000	50,000			
(0) 学部創立50周年事業支援	300,000	292,425			
2. 運営・管理費	2,400,000	1,642,274			
(1) 印刷・通信費	450,000	391,695			
(2) 会議費	700,000	335,499			
(3) 総会費	300,000	127,380			
(4) 事務局費	900,000	787,700			
(5) 慶弔費	50,000	0			
3. 予備費	5,448,000				
4. 次年度繰越金		6,962,210			
合 計	12,898,000	12,748,031	合 計	12,898,000	12,748,031

2023年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	4,400,000	1. 部会助成金	4,271,000
(1) 会報発行費	2,650,000	2. 会報郵送料補助	856,000
(2) 三水会HP運営費	200,000	3. 前年度繰越金	6,962,210
(3) 会員現況把握費	150,000	4. 預金利息	90
(4) 親睦会開催費	400,000	5. 雑収入	10,000
(5) 同期会等助成費	200,000		
(6) 懇談会費	100,000		
(7) 準会員活動助成金	200,000		
(8) 就職ガイダンス開催費	250,000		
(9) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
(10) 水産学部卒後30年の集い検討会費	200,000		
2. 運営・管理費	2,400,000		
(1) 印刷・通信費	450,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	300,000		
(4) 事務局費	900,000		
(5) 慶弔費	50,000		
3. 予備費	5,299,300		
合計	12,099,300	合計	12,099,300

催した。

5. 同期会等の助成

研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集會等の助成申請はなかった。

6. 懇談会の開催

大学教職員及び在学生等との懇談会、意見交換会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を見送った。

7. 準会員活動助成

・北里祭は、新型コロナウイルス感染症対策のため、入場者を学生及びその親族、教職員、進学相談会参加者に限定し

て、対面にて開催された。

・準会員活動助成、クラブ活動助成の申請はなかった。

8. 就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生を講師に迎え、就職ガイダンスを海洋生命科学部在学生を対象に2022年10月13日(木)に開催した。今年度は受講生との交流会等は行わず、粗品を進呈した。

9. 漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている公益財団法人漁船海難遺児育英会に対し寄付をした。

10. 学部創立50周年事業への支援

・海洋生命科学部創立50周年記念に際して、MB号館1階フロアー(正面玄関付近)に壁掛け時計を寄贈した。
・学部創立50周年記念事業募金について、三水会HPに掲載するなど募金活動を支援した。
・2022年10月9日(日)挙行の、学部創立50周年記念式典で20万円の目録を贈呈した。

『2023年度事業計画』

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、及び各種情報を含む会報を2023年9月と2024年3月の2回発行する。

2. 三水会ホームページの運営管理

会員に対し本会の各種情報を提供する。

3. 会員の現状の把握

全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努める。

4. 親睦会の開催

各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。

5. 同期会等の助成

研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集會費用の一部を助成する。

6. 懇談会の開催

大学職員、在学生及び卒業生等

との懇談会を開催し意見交換を行う。

7. 準会員活動助成

準会員(個人もしくは団体)活動経費の一部を助成する。

8. 就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生を講師に迎え、海洋生命科学部在学生を対象に就職ガイダンスを行う。

9. 漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。

10. 水産学部卒後30年の集い等検討委員会の開催

水産学部卒後30年の集い及び各種事業についての検討委員会を設置する。



水産学部11期生同窓会を開催して

IIAF 深井 敏行

水産学部11期生（昭和61年3月卒業）が大学卒業以来初めて37年ぶりの同窓会を令和5年3月25日（日）に新宿の「ホテルローズガーデン新宿」で開催しました。現役で大学に入学した卒業生は今年還暦、浪人組はちょうど還暦の時期と重なり、その報告をさせていただきます。

【きっかけ】

令和4年11月5日（土）「水産学部卒業後30年の集い 7・8・9・10・11期」の開催案内が三水会から会員に届き11期の10名が北里大学相模原キャンパスに集合した。会場では三陸時代いっしょに青春を過ごした同期が久しぶりの再会を祝い、会終了後には相模大野駅で懇親会を開催、青春時代の思い出話をする中から同期を集めて卒業後初めての同期会を開催しよう！という（まあ、酒の力だったが・）話にまとめたり三水会の役員である徳江君を中心として準備を進めることになった。

【コロナ禍での準備】

下火にはなった時期とはいえコロナ禍での開催。当時はまだ感染症は2類であり各業界で管理職と

なっている卒業生たちに安心して参加してもらうための会場探しから始めた。全国から参加することが予想されたので「ターミナル駅」「ホテル」「全国からの参加者が日帰りができる時間帯の開催」という設定をして以下に決定した。

3月25日（日）新宿のホテルが会場。上記したホテルで昼12時から開催とした。

同窓会案内等事務的な仕事は、すべて徳江君が担ってくれた（奥さまに感謝！）



11期生同期会参加の皆さん

【当日】

大学卒業後に一堂に会する会は初めてである。37年ぶりの昔の親友たちとの出会い。名前が出てこない？ということ全員に名札を用意して受付に並べた。参加者は、29名となり久しぶりの再会を喜び合った。大学を卒業した後、どこに住んでいるのか？元気でやってきたのか？など酒を酌み交わし外の喫煙場所などお互いの報告をしあった。

一人一人の現状報告を一人2分で行ったが、時間が足りなすぎた。もっと聞きたい！元気で良かった！孫がかわいくて！やっぱ漁師が一番年収があるな！など盛り上がった。

三陸校舎で学びをともにした若き日の自分に同窓会という空間はタイムスリップさせてくれた。【卒業後40年を祝う会を三陸で開催！！】

最後に人生100年時代。しかし車の運転などを考えると60代がベスト。大学卒業40年を祝う同窓会を三陸校舎（現三陸臨海教育研究センター）に集合し3年後に開催することを約束しこの会報原稿の閉じとしたい。もちろん、次回同窓会の中にも徳江君が担う（笑）

海を描く

海洋生命科学科39期生

永嶋 瑞穂

海洋生命科学部2014年卒業生の永嶋瑞穂と申します。

現在はIT関係の会社に勤めながら「いきもの画家」として画家活動をしています。

作品の題材は実際に自分が見た「生き物」。

私は生き物が大好きで、これまでスキューバダイビングで国内外の海で2000本以上潜ったり、バックパッカーで熱帯雨林を探検し、様々な生きものを見てきました。このような大自然で感じた自然の美しさや、生命の躍動感を表現したく、作品の制作をしています。

今にいたる私の経緯をご紹介します。

私は新潟の自然が溢れる田園地帯に生まれ、子供のころからタモ





網を片手に水田や用水路でフナやドジョウ、クサガメを追いかける日々でした。その頃から将来の夢は「生き物博士になること」で、尊敬する人物は動物学者の千石正一先生でした。

高校卒業時その思いは変わらず、水棲生物の研究ができる北里大学の海洋生命科学部に進学を決めました。学生時代はスキューバダイビングに没頭し、学部の研究では「ウナギの回遊について」大学院では「ニザダイの食性とアミ

昼ごろに終わるので空いた時間は、ダイビングで見た海中の世界を思い出し、それを絵に描いていました。

11ヶ月間この生活を続け、帰国する頃には作品がたくさん出来あがっていましたので、帰国してすぐに個展を開きました。

個展開催のときは大学時代の友人や先輩、先生方が足を運んで下さりました。このような繋がりはとても嬉しいですし、海洋生命科学部の友人や先輩方は「自分の好き」を軸にして、お仕事や活動されている方がたくさんおられます。そのような方々の存在が刺激になり、自分の活動の励みになっています。

現在は会社員をしながら画家活動をしています。自宅に制作活動用の部屋を設けて、毎日そこで作業をし、不定期ではありますが個展を開いています。会社の広報関係の業務においてイメージキャラクター制作をしており、デザイナーのスキルが役立っていますし、とても良い環境で会社業務と画家活動の両立をさせて頂いています。

学生時代には全く想像をしていなかった働き方をしていますが、学生時代に学んだこと、経験と「自分の好き」を掛け合わせた活動が出来ていると感じています。

着任のご挨拶

環境生物学講座

魚類生態学研究室

武藤 望生



三水会のみなさま、はじめまして。2023年4月1日付で海洋生命科学部・環境生物学講座・魚類生態学研究室に着任いたしました、武藤望生と申します。魚類の種における多様性や、種内の遺伝的多様性について研究してまいりました。魚類の自然史研究に関して日本トップレベルの伝統と実績を誇る本学部を迎えていただきたいへん光栄であるとともに、責任の重さも感じております。期待されている役割を果たすことができるよう精一杯努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本稿ではまず、私の経歴を簡単に紹介するなかで研究上の興味について触れます。その後、それらの研究を本学でどのように発展させていくかの抱負を述べます。

私は高校卒業まで岐阜県岐阜市の川で淡水魚に親しみ、魚類図鑑を擦り切れるほどくりかえし読む

ような、典型的な「魚少年」でした。中学以降いったん魚への興味がうすれたものの、大学進学にあたって再燃し、進学先には京都大学農学部資源生物科学科（改組前の水産学科を含む）を選びました。大学では4年次から海洋生物増殖学研究室に配属され、博士の学位取得まで6年半所属しました。この研究室は、魚類の生理学、分子生態学、分類学をそれぞれ専門とする3名の教員で構成されています。私は、今となっては思い出せないほどの些末な理由で、分類学を卒業研究のテーマとして選択しました（そのため指導教員に志望理由をうまく説明できず、研究室生活の初日は2時間以上にわたるお説教で幕を開けました）。ところが実際に取り組んでみるとこれが実に面白く、現在でも分類学は私の主要な研究テーマのひとつです。

大学院ではメバル属魚類を対象として、ひきつづき分類学的研究をメインテーマとしつつ、分子生態学的手法・観点で種分化の研究にも取り組ましました。メバル属は当時、非常に近い過去に共通の祖先から派生した種のペアを多数含むグループであるという事実が明らかになってきていました。種分化の研究では、分化して間もな

い種が互いに生殖隔離されている仕組みを調べることで、種分化がどのようにしておきたかを推測できるといふ考え方があります。この考え方にもとづき、多くの研究者がメバル属の研究に注力しはじめました。私は、キツネメバル、タヌキメバルという分化して間もない種間の遺伝的差異を分析して、漁獲データと照らし合わせることで、漁獲データと照らし合わせる種の生殖隔離の要因である（それゆえ種分化のきっかけであった可能性が高い）と論じました。こうした種分化研究もまた、現在までつづく主要なテーマのひとつです。

博士の学位取得後は、ポスドク研究員として総合地球環境学研究所に着任し、東南アジア沿岸魚類の多様性調査・研究に携わりました。フィリピン、タイ、マレーシア、ベトナム、カンボジアといった国々をおとすれて標本を採集し、図鑑の作成や種々の基礎研究を行いました。最も力をいれた研究は、遺伝データから対象種の分布域形成過程を推測する分子系統地理学です。東南アジア周辺海域は過去の環境変動によって干出と水没を繰り返したことが知られています。私たちの分子系統地理学的研究から、多くの魚種がこの環

境変動の影響を受け、個体群の離合集散、分布域の拡大・縮小を経験してきたことが明らかになりました。また、その影響の程度は魚種の生態や生活史により異なることもわかりました。

その後本学着任までの期間は東海大学札幌校舎に教員として所属し、教育を主な業務としつつ、前述した研究テーマをそれぞれ発展させてきました。たとえば、メバル属の種分化に関する研究では人工交配や飼育実験を行ったり、分子系統地理学的研究では近年技術発展の著しい「次世代型DNAシーケンサー」を使用したりしてきました。

以上のように、手をかえ品をかえ、北海道から東南アジアまで魚類の多様性を節操なく研究してまいりました。この多面性を武器として本学でも教育・研究にまい進していく所存です。

まず取りあげたいのは、本学と関係の深い三陸を含む、東北地方太平洋沿岸の魚類です。近年の研究から、ある魚種ではこの海域において遺伝的に異質な日本海個体群と太平洋個体群が共存していたり、別の種ではそれらが交雑して独自の個体群を形成したりしていることがわかってきました。これらの興味深い分布パターンはどれ

くらい普遍的なものでしょうか。また、これらのパターンは過去から現在にわたる海洋環境ならびに魚種ごとの生物特性の産物と思われるますが、具体的にどのような要因に規定されているのでしょうか。さらに、後者のパターンにみられる「独自の個体群」は、形態的な独自性ならびに他個体群からの生殖隔離によって定義できる独立した種なのでしょうか。もしそうであれば、分類学的研究によって適切な学名を与える必要があります。このような疑問をひとつずつ解決していきたいと考えています。

さらに将来的には、本学部の多様な教員のみならず、協力的により、個人の知識・技術・想像力がおおよぶ範囲をこえた魅力的な研究が展開できることを願っております。それがどのような研究になるかは現時点では（定義上）知る由もなく、ただ期待に胸を膨らませるばかりです。

以上、拙文にお付き合いいただき誠にありがとうございます。本稿執筆の機会をくださった三水会の高橋会長、長谷川理事、ならびに会報担当の内藤様に心より感謝申し上げます。

三水会事務局「名簿管理担当」就任ご挨拶

元海洋生命科学部事務室職員

丸山 秀子



2023年4月より三水会事務局からお声がけいただきまして「名簿管理担当」に就任いたしました丸山です。

この度、就任するにあたりましてご挨拶の機会を頂戴いたしましたのでご挨拶申し上げます。

簡単に私の自己紹介として北里の職員時代のことを記させていただきます。

私は、北里大学薬学部に1978年に入職して、「医学部」、「学生サービス部」、「就職センター」を経て海洋生命科学部事務室には2011年7月に着任しました。

同年3月の東日本大震災により三陸キャンパスから相模原キャンパスにキャンパスごと移動することとなり、学生の皆さんが大変不安の中、私も戸惑いながら着任したことを思い出します。私の北里生活は42年間という長きに渡りましたが、各事務室（医学部を除く）では主に学生に関わる仕事を担当

し、たくさんのお思い出と共に皆さんから多くの元氣や教えをいただきました。

特に海洋生命科学部との思い出は、前部署だった就職センターの時に訪れた三陸キャンパスでの就職ガイダンスでした。相模原では就職先が決まった先輩方が後輩の就職支援をする「KJA」を立ち上げたところで三陸キャンパスでもぜひやりませんかとお声をかけしたところ、ガイダンス時に快く引き受けてくださった皆さんと一緒に三陸でも作り上げたことです。

この度三水会の高橋会長より「名簿管理担当」としてお声をかけていただきました。定年退職後3年のブランクがありますが学生課でお世話になりました感謝の気持ちもありお引き受けさせていただきました。微力ですが少しでも皆様のお力添えとなりますよう精進いたします。

今後ともご指導のほどよろしく
お願い申し上げます。

※2023年4月1日付着任の西原秀夫教授及び池上花奈助教の紹介は次号に掲載予定です。

北里大学海洋生命科学部創立50周年記念事業募金について

「北里大学海洋生命科学部創立50周年記念事業募金」について、三水会会報（第82・83・84号）においてご案内をさせていただきましたところ、多くの三水会会員の皆様からご賛同を賜わり、募金の目的である“学部創立50周年記念誌の作成”並びに“学部創立50周年記念式典の開催”につきましては、2022年度に目的を達成することができました。

なお、募金の募集期間は、当初、2023年3月31日までとされておりましたが、その他の目的である“相模原キャンパス共有機器等の更新”及び“三陸臨海教育研究センター施設設備、機器等の更新”の達成に向けて、2024年3月31日まで延長されることとなりました。

つきましては、引き続き、多くの三水会会員の皆様からご芳志を賜わりたく、改めてご案内させていただきます。

募金の詳細につきましては、北里大学海洋生命科学部のホームページ（以下URL）をご覧ください、何卒ご賛同賜わりたくお願い申し上げます。

<https://www.kitasato-u.ac.jp/mb/about/50th/>

三水会会長 高橋明義（昭和55年卒・5期生）

■ 三水会第16期代議員候補の推薦について

2024年度は三水会第16期代議員改選期にあたります。

本会活動を円滑に運営するために代議員の協力は欠かせません、自薦、他薦は問いません、下記の要綱にてお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。代議員任期は2024年5月18日から2027年5月の定期総会までの3年間となります。

記

1. 下記をご記入の上、FAXもしくはメールにて三水会事務局までお送り下さい。

- ①代議員候補者氏名 ②卒業年度もしくは卒業期 ③勤務先名称
④連絡先住所 ⑤電話番号（携帯） ⑥メールアドレス

※代議員の主な活動

- ・毎年5月白金キャンパスで開催（第3土曜日15時開催予定）の三水会定期総会出席（委任状も可、交通費支給）
- ・その他

2. 推薦受付期限は2024年3月末日です。

3. 不明な点は下記三水会事務局まで、ご遠慮なくお問い合わせください。

三水会事務局 電話：FAX 0120-873-135

E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp

■ 北里大学海洋生命科学部創立50周年記念誌の頒布について

北里大学海洋生命科学部は、2022年に創立50周年の節目を迎え、これを記念して記念誌が発行されました。

この度、海洋生命科学部のご厚意により、三水会会員の皆様に限定して記念誌を頒布させていただくこととなりましたので、ご希望の方は、下記の要領でお申し込みください。

記

1. お申し込み方法

三水会事務局までE-mailにてお申し込みください。なお、E-mailの件名を「創立50周年記念誌の申し込み」としていただき、記念誌の送付先として、お名前、ご住所（〒から）、電話番号、また卒業年をお知らせください。

※個人情報、記念誌送付以外に使用いたしません。

【E-mail】 information@kitasato-sansuikai.jp

2. 送付方法

ご指定の送付先に宅急便（着払い）にて配送いたしますので、送料につきましてはご負担願います。（940円～1,480円、地域により異なります。）

3. その他

- ・一人1冊とさせていただきます。
- ・記念誌は限定制作のため、頒布数に限りがあります。予定数に達しましたら終了させていただきますので、予めご了承ください。
- ・お問い合わせは、三水会事務局（E-mail）までお願いいたします。



以 上

■ 三水会北海道地区親睦会開催のお知らせ

北海道地区親睦会を2024年2月17日（土）に札幌市内で開催予定です。

開催2ヶ月前を目処に詳しい内容をご案内します。

厳寒期の開催ですが、皆様のご参加をお待ちしております。

編集後記

2023年の夏は猛暑、酷暑が続き、地球温暖化は終焉を迎え、地球沸騰へと大きく変容しているとのことです。世界的な自然環境の変容に加え、経済では物価高が止まらず生活は厳しい状況が広がりつつあります。一方、コロナへの対応は2類から5類への政策変更で観光業などでは人出の復活、お盆の交通渋滞がもどってきました。台風も大型化、強力化が特別なことではなく、台風6号による沖縄地方の被害、続く7号による西日本の被害が相次ぎ自然災害も日常的になってしまいました。被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。私ごとですが、7月に三陸に3泊4日で溪流釣り三昧&観光に行きました。宿泊は三陸キャンパスの宿泊施設を使わせていただきました。施設はきれいでもとても快適なものでした。卒業生や一般の方も宿泊可能な施設となっていますので三水会の皆さんも家族や友人とで訪れてはいかがでしょうか。地球沸騰で三陸が熱帯になる前に三陸を楽しんでおかなければと思うこのごろです。